

globin での成績とを比較検討した。

38. 放射性 I 標識 albumin並びに γ -globulin 代謝
による血清蛋白異常の検討

慶応大学 三辺内科

○朝倉 均 鈴木 紘一 松崎 松平
野崎 学 土屋 雅春 三辺 謙

血清蛋白異常を呈する各種疾患に、放射性 I 標識 albumin, γ -globulin を用いて、その代謝を調べた。

I) アルブミン代謝：延べ46例の成績は次のごとくである。肝疾患ではその血清濃度に相関して degradation rate が規定され、副腎皮質ホルモン投与群では非

投与群に比べ degradation rate がやや高い。蛋白漏出性胃腸症やネフローゼ群では、肝疾患と異なる成績をえた。また、低蛋白血症を呈し手術により正常化した腸疾患の術前術後のアルブミン代謝を検討した成績では、蛋白漏出性腸症と腸瘻では異なる成績をえ、本法の有用性につき述べる。次に、蛋白漏出性腸症の診断に有用とされている $^{131}\text{I-P. V. P.}$ の成績 (27例) と血清アルブミン濃度や代謝との関係にも言及する。

II) γ -globulin 代謝：肝疾患における副腎皮質ホルモン投与非投与群、ネフローゼや蛋白漏出性腸症、hypogammaglobulinemia らの計21例の成績を比較検討し、本法の有用性を述べる。